849
55

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

地震後世俗語之種

後編

二

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

おのもかな段

落葉

袖みゝ月面の

おつもひ

うつ面

栗生尾

ある明

なの集

てて浮

殺風景な

噺よ

善光寺にて

三國傳来の写像

人崇めく仏都と

こゝ中ともも

者云仏の

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

849
55
特別

親鸞廻りて二萬五千日の數を積る此事
おもふに我大菩薩命成を以て
一心世尊院の本尊釋迦牟尼如來佛を
紫金殿にして爾も小越今所の霊蹟善光寺濱
出現まします由を以て弥陀如來の
御願を受給ふ船の邊りに至り重く苦行する
只中なりと国々に本願所四佛ましまし
国土を救ふ代りに所廻國の刹此釋尊れ
とうや御るに今大菩薩一山燒元乃

時自然なるも佛なりしかりけり流轉
其の初祖の佛善薩一時乃法おろかなり
給ふ中佛法喜したりとて苦て云惑の色
しに佛乃とくけ給ひ燒元出給ふ中こ我
正法を眞俗なきもいつの頃よりなりける也
所は神田明神の神威忍多くも寺社
御奉行所より頂書戒奉る其子細を神前
おのて湯乃紀の行樹勤行 仕度乃
方法ト上ふ 蘭石せらもう湯乃宮れ形
と云ふ所の利益あるやを 所尋ありけるは

慎く左様に願ひ
察りたる利生を
承の侍へ共若し
しるべて
是様機
行ふ
様言上仕則
御許容
様仕作
ものを

けるとの御祈願く浅山王社神職兵部湯の
花の願書を捧ける時の　御奉行所
被為聞召て時小利益の生涯　御尋の
何事ける変る両色様胡麻当惑く其利益の
廣大無邊なる事を聞かゆかる言上を
是市兵衛久しく空敷下り無と いひ
侍ふ愛様多つて正法を信ぜざる者社
等ふとけ迷ひ実生成如来と稱せ奉ハ
當業より二二七の小児を ふ屋し
己か心の信實様こゝ川を時を願の願すりも

光明殺つ為る屋一ツ物刹り顔乃
論語志ゝ行ゝ志はしゝ多ゝ憂ひ殘ける愛ふ
亡国幾と生る多ゝ彫天変の海市本佛殘もし
免年り前立志ゝ有る市印文堺切道れ
従御本堂丑寅ニ當り畑之中ニ御假小屋建ル加為りゝ江三月廿日
四月十六日ゝ安置奉る其畫圖ヲ不出ハ此所ニ其印ヲ可為殘
依テ後代尚不盡ナルヘシ而ヨ遠近諸國糸治の旅人引も
多ゝ江ゝ多ゝ群集ゝ氏芭志ゝ加ゝ多ゝ市ゝの
見世店殘仮ふまゝ利潤たるも多ゝ加り
けるとゝ為ゝ為ゝたかハぬ繁昌多ゝ實ヨ類有市佛為り

御寶物　市類燒　本願上人様

市内中靈寶幷見有之ハ悉取拾ひて所有之
理紀る之大地震前ゝ否即時小市燒内
類燒志為る為ハ燒亡の丸ゝ志ゝ之とも
可奈黒地靈場幾莫の寶物為ん可哀可恪

二王門　炎上

二王尊
高野山本喰上人の安置志ゝ其他稀也

本喰上人の書翰

二王堂奇附の伽藍戸の内甚妙坊（先年流れ送られる此書簡表装しく仏物と欲是皆大火の為に焼失せしとの）

大黒毘沙門両天

其作甚だ古雅なり迦羅像よりしく爾も古物なり是一時の所とある

閻魔王像

法然堂町の閻魔堂なり。世に此像を祭り正十六日光若男女群集する事其類ひ鄙山里と雖ども数多し今此王像の妙作なる事八其類なれども是則小野の篁の作なりと云ひ伝ふ亦可恪所とあり也

法然上人の像

因所正信坊に有り上人自作よしく爰に殘せる依て此所法然堂町と云ふ

笹の葉 札名号

此一軸甚だ中品の一光堂坊なり親鸞上人此坊に逗留して百日の間頭に笹の葉の形に六字の名号染筆ありて多く残せる赤札賛物や

釋迦如来

右伝て内釈迦堂の本尊世尊院なり 御国の濱通今町の西に河ある所の海中に現れ仏尊なり然る因縁によりて いまもある

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

北越今町之街并善光寺濱一見之畧圖

ヒレ十歳ナリシ爰祖父ニ連ラレテ此濱ヲ至リ一見シタル空覺ヲ以爰ニ圖ヲ出スナレハ其違ウ支ヲ免シ給ヘ

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

善光寺濱といひ亦善光寺村かしてて善光寺へ
埠銭進献する事今も粒中絶する事なしとぞや

大日如来

大日堂京徒花智院の本尊

聖徳太子四天王

太子堂京徒福生院の本尊

曼陀羅

曼陀羅堂京徒尊勝院の什物日本二幅なり
とゝ当麻の曼陀羅を蓮の糸をとりつゝ中
將姫ゆゑを感ず今此曼陀羅を北畠典子の筆画なり
ゆゑ法摂とゝうとぞや

薬師如来

薬師堂京徒最福院の本尊 播州須磨の
浦海中に現ずる石像なりとい
ふ其外他堂に仏像多し 仏者石像なりとい
ふ 数多らくを日のもの

播州頃齊之浦海中ヨリ石像之藥師如來出現之大畧圖

○此國ニホタ行テ見ス唯其趣ヲ畫ニ出スナレハ其建ハル支ヲ不可咎

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

是等の類ひ多く今思ひ出つる儘を其の儘
ふ詳なるを加へて是は格むとい〳〵も其の
一山 光明院 世尊院 寶勝院 圓泉院 常德院 藥王院 最勝院
德壽院 本覺院 良性院 威德院 常住院 蓮花院 尊勝院
教授院 吉祥院 福王院 寶林院 ○堂照坊 堂明坊 兄部坊
常智院 長養院 玉照院 以上廿一坊 白蓮坊 正智坊 淵之坊
常圓坊 行蓮坊 白佛坊 鏡善坊 野村坊 ○玄證坊 善行坊
信行坊 淨願坊 德行坊 隨行坊 以上十五坊 壽量坊 林泉坊
誦名坊 甚明坊 正定坊 蓮池坊
常行坊 遍照坊 以上十坊
燒亡し名僧は名たる而れ靈佛重寶の
類ひ所とある事數多ありたれ可哀
歎くべし尚尊ぶて四百の巻ふ番補
[illegible]

左ふ出て國を去る天保十四年卯孟春九日より
如月の初つ須まも西成の方に向ひ諸
雲の如き或三重を裝ふとい〳〵も日脚乃光を押へられ
其形能を明に見る人も又稀なるの如き事
始め二日は雪須ふ〳〵其を忘く其を裝ふ
諸人是を見て奇異の思ひをなすと曰く別段
なし完進く地より一説に云ふ所の其幅凡六尺其丈
極りなくして石已も向ひ行事數十里行先
明の如く次第に行く法七十三數出ふる
至りて自然と其形能を其行り板圖の如し

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

爰に為義とまうすもの北信濃國の所謂山國なる事
遠く境を南に人なりしも是をたゞさるべきに
さもしは大地震乃大災あるとも山國にしく
洪水の難は別に大変なりしは恐ひたるひのあ
も理なり今より時を犀川に連なる所の
村々民百姓はなりしも年経て後孫乃
世に至りなほ昔しの大地震震災北大河洪水
しに其時は北迄も満水流矢の雄あり
とうも我ら祖父母長命にして此の患を逃
たりなをいひ伝へのみして尚年代果しなる
至りて昔の人の言かゝしなる能く覚えしかるに
大変なりしも歳数十丈の水の高りてや高き
地をもおかく水災は患あるべしや数し来れ
ばなりけるなと思み言伝へ居し今丁
未三月廿四日の夜亥の刻濃州尾張の
化物のつく再時に大河なと一滴の水
なし渇きなして四月十三日の刻迄其日
後なる所に二十日といへども眼をく間も法るに
なまなかし大河なる止まる事家許地の
無量なるの洪世界なれば所

二十日かゝりて漸く荒こゝろの事湖水よりとく
諸人眼を驚かして計りなりき廣き山中と
いへども市たくしたくして村数殊に繁けれは
家ふ畧ていへども信濃國伺寸の細村石張瓦葺
たゝくたもは是なりんくに長屋をなす明
水巡の大和紙受け家藏満面のゝふ深い
水層に沼み耕地を押流し山嶽崩れて七中
に埋み溺死は念佛寺村五百人の人家山嶽ゝ
出して一寺出ずに埋みぶうゝ火事とおり民
迫ひゝ悩みして見るに生命炭屋とゝ多り也

亦下祖山村白心菴の裏岩石崩れ落ち葉ふ
埋むと云ども住僧素より一字行修に埋み
しかも歌の号変状ちがて高村の妻山崩け崩れ
泥水ゝゝ山の如くゝ一村の民家
悉く埋み堆二十日二十日乃至百日隔りて
尚迫ふ人民牛馬城塞を崩れたるの
類ひ多くと云ども畧書也 其詳カ成事ヲ尋得ニ爰ニ書加フ爰
ヲ思所ニ腦ニテ不任心ニ有ケル所ニ幸ヒ成ケルハ地震ノ繪
圖出板アリ是ヲ調得テ一見スルニ予カ如キ無学ノ作ス所ニ
非ス折節眼病ニ痛ク腦ニテ有ケレハ此繪圖ニチカラヲ得テ幸
ヒニ水災ノ圖西ヲ爰ニ省畧ス我方リテ其文愚也ト言トモ此
繪圖計ヲ以後世ニ傳フル時ハ悲歎之情合薄キ支モアラン方因テ
繪圖ト此書ト共ニ二七八是後代之傳ニ可成欲然ニヲキテハ爰ニ筆ヲ

山ヲ短カク小児ノ見安キニス其詳ナル子細ナル爰ニ加ル時ハ文面長キニ至リテ見安カラス依テ子細ナル次ニ譲ル也

尚後編四

上の巻丹山を出て高地見へ初る所

爰ハ又川中嶋村也川辺ハ連て高地

所の民百姓家家の山へハ少屋ヲかけ仮居し

今ハ水の押来り我家の流失する事也と

頭いなる我待ヲ云つも是重ニ家かんなハ

ハ我ハ川一面ハ海ハ高地ハ既ハ二十日の夕

ハ高り山ハ高き所ハ天地ハ川かハる所ハ所ハ

海嘯ハ如ハ破却し洪水押出海ハ国

海ハ高地ハ中の刻頃小市に押出ハ其有様

山ハ山ハ我宅ハ川ハ只海ハ高く其高く水

様ハ如ハ其海嘯ハ如ハ高ハ数り九尺ハ暗夜

乃如く其海嘯ハ如ハ高く見へ海波

海ハ小市より一里川下ハ山の如く高く夫浪ニ成て押行ハ

ハ高く高く小ハ小市村ハ一下破りに成て数村

の民家耕地ハ悉押流し久保寺村九反村

荒木村等の耕地ハ海水の如く其水勢荒木村

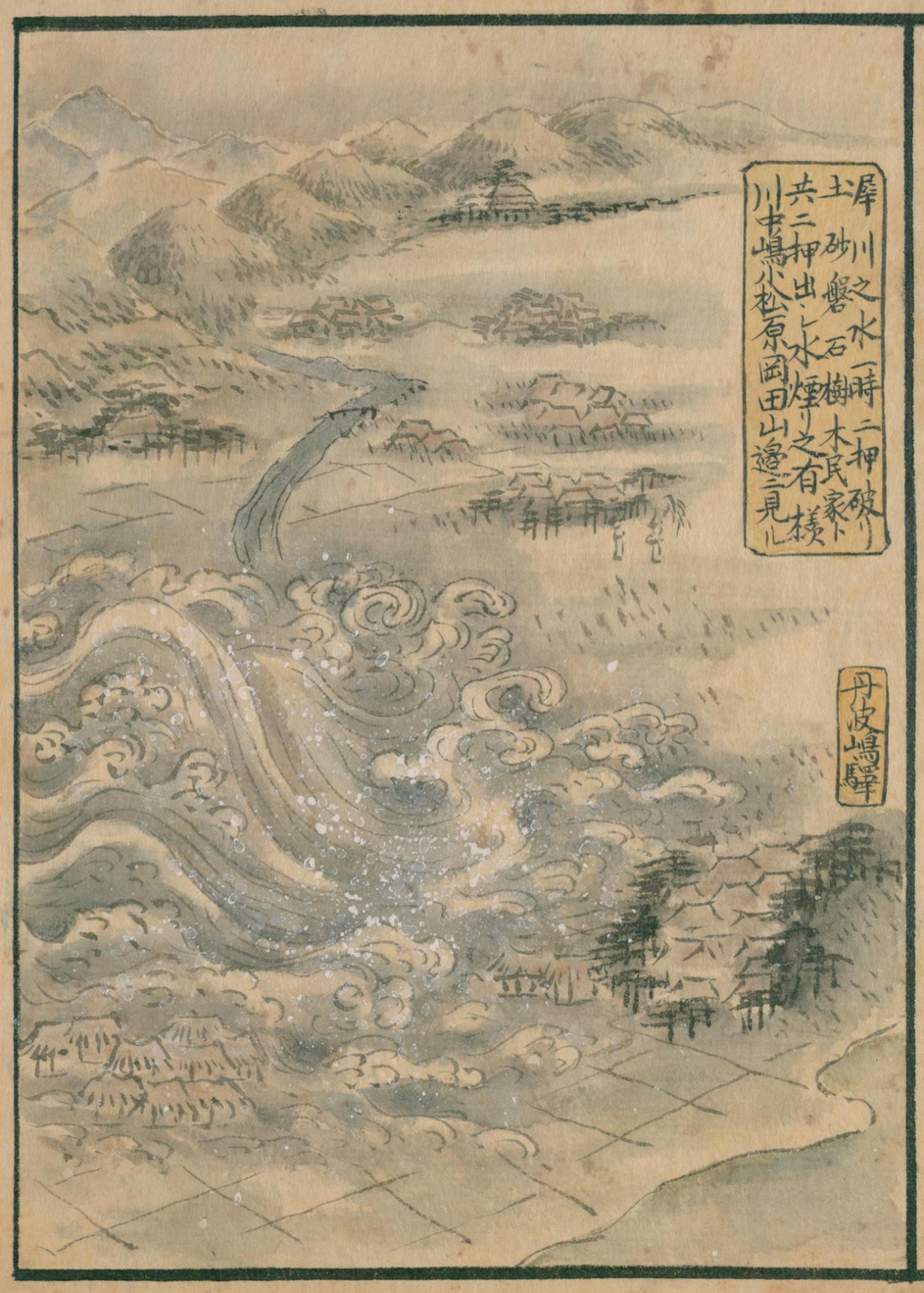
吹上乃岡金瀬鶴ハ押行市村新田川合村ハ

他場ハ押荒一帯川と株花川と是合せて

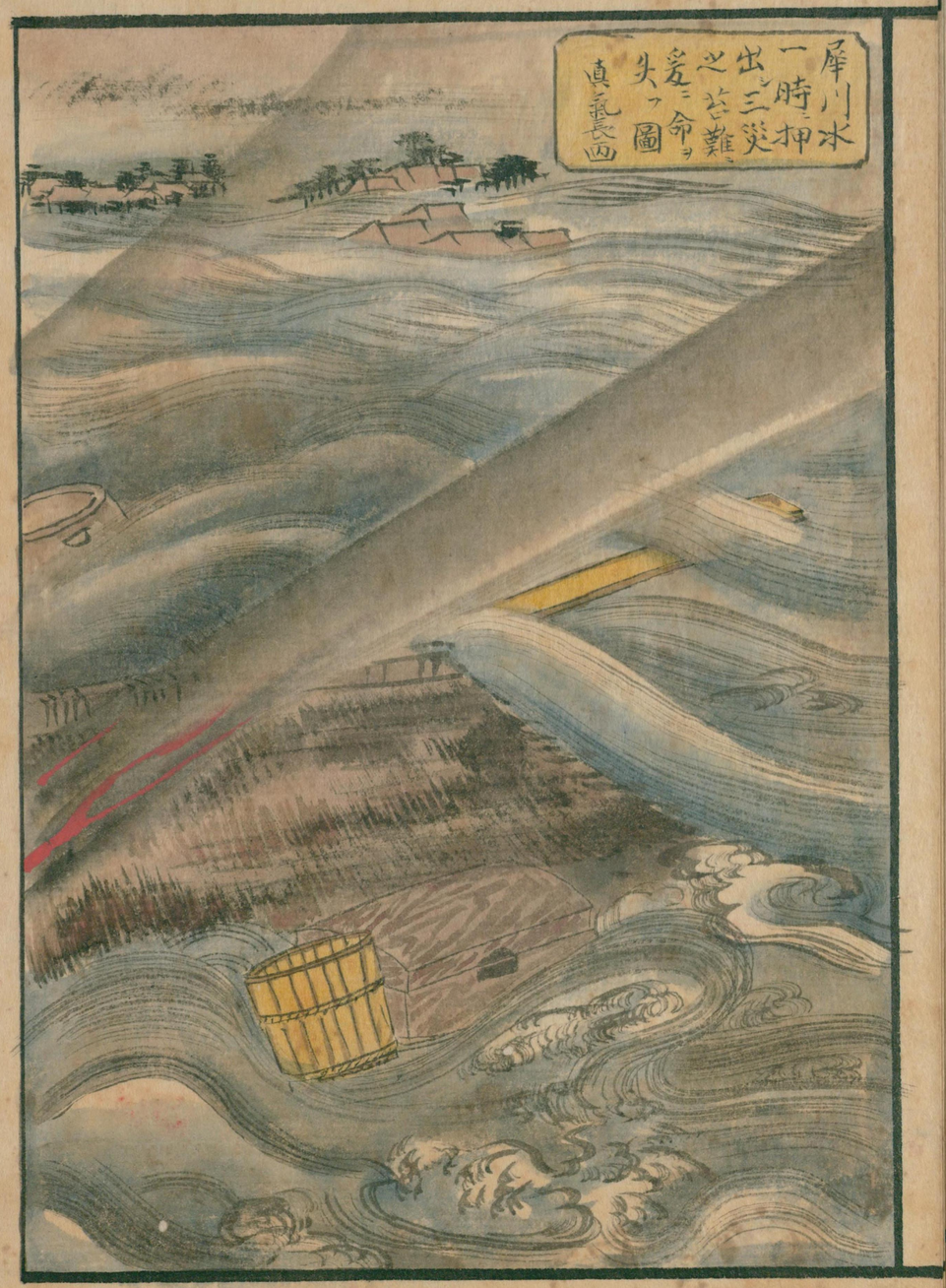
一面の満水となり南ハ小松原村ハ一ツ屋村

道の堤を押破りて其二ヶ村流失罹災し中潟
一帯数多の村々一番水中に浸むかゝり暗たる
ゝ間に満潮の高水潮水のゝ如くなる海に似たり
其有様実に見るに諸人呆ばうぜんとして驚き世
次恐怖せずして美ともなくうつとも可我
身我枝掠りて痛み我身命を立ける加を
悔まるもれ可かりけるとや家蔵の流れ行
事歳を重ねる秋の末北美の流れ加大とく
其数数千万といふも我高ならんかなるに
何を稔とて浮世の涙のうち出る事丈を

河内に流れ出る家財の形成を浮べ
長沼の中の流れ通ふ人々とゝ哀れ又
用をあたらず生き死にけ者高く枝に寝る者
若し流れの水の面我親戚いとおきつるを抱く
流れ行屋根に乗り付我身も呼へとも
助け船なく中より流れ行
るかゝるよりも大事とする屋根のよりて
稼損じ物産の如し数かなし又種蒔
の米味噌と見て涙せし漫くも多大海の如し
川風烈しく大我防事ならさる絶る



国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

なかなか成ける者其数幾多なる知れども沖の
江の浪ふ奥火を見んかなかく捨さかしこに
入四ろる苔ふるすの所〳〵是迄地水火乃
三災一時乃大難を蓋の四ろる前業
ふかしとも行ろまもあ〳〵徒恋なりけるは
和念也よ活世世書我見ろ人黄金珠玉等
只一世の財寶榮花榮耀を更北佛之
の資ふ可恐未来世ハ助成ろ可深く
書ふ行ふる社所要ふ徒

五月十六日晴ハ時仲供揃正ハ時仲門行列
協切道御假小屋より萬善堂御假屋〳〵
御引移り諸人群集殊之敬拝さて

御山内小屋 海老屋花蓮 後の歌 芝居茶屋
后行列 同公 同公 高濱 上下若侍 高濱 上下若侍
同公 同公 高濱 上下若侍

仲間 御朱印 仲間 上下若侍 上田丹下 麻上下若侍 若菊
〃 〃 〃 〃 〃

徒打 麻上下若侍 久保田内記 若菊 若菊 徒打
若菊 若菊 若菊

尊勝院 若菊 良性院 〃 色名ニハ名ハ

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

御賽金
出家
出家
白鳥
出家
出家
今井宗雪
若菜
茅屋取

中野治雪
若菜
茅屋取
山極之雪
若菜
茅屋取

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

町年寄衆全下者　八町堀上下　医者中

衆供迫了　以上

丁未神無月十八日四ツ時御出棄

萬善堂御假屋ヨリ

如来御遷座之圖

參詣群集

右四日の出ル諸講ニテ枝時四ツ時

頂ヨリ大ニ暴ルト可知。日記ヨリ出ス

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

当日諸方の参詣物移猶亦来詣乃諸人
群集おびただしく百有余歳の齢を経ぬる老人
も覚えず足袋の跡猶ほまぶたに見聞きする事
なりしとぞ　大英の後光ありけるを賞し
奠ぶ所霊場可仰尊重　御行列の次第
先箱　高張　白鳥省　坊官　口口口口　立下箱用
先箱　高張口　坊官　口口口口口口
酒水　黒衣二人　備小五條　尊勝院　手番燈　黒衣二人　備小五條　威徳院

坊官　黒衣六人用　同　御別当
坊官　黒衣六人用　同　大聞頂院権僧正山海　紫衣立條
黒衣六人用　同　仏折傘　古笠ノ廣　古杖　僧　黒衣二人備　小五條
黒衣六人用　同　仏折傘　古笠ノ廣　古杖　僧　黒衣二人備　小五條
手燭僧　黒衣二人備　小六條　但シ二ツ西ニテ　御本佛御薬　右後中黒衣二人法小六条　但シ何レモ二ツ西ニテ
手燭僧　口同
天僧　僧　仏ましまし上用　日光山　南勝院　法成院　門院代　色衣二條　御受御薬　白鳥省用
僧　赤衣五條　御薬壺　用　着用　立傘　着用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

跡箱　侍　同上下着用　麻上下着用　上田丹下　同　若葉　浅持　草慶

跡箱　侍　同同別

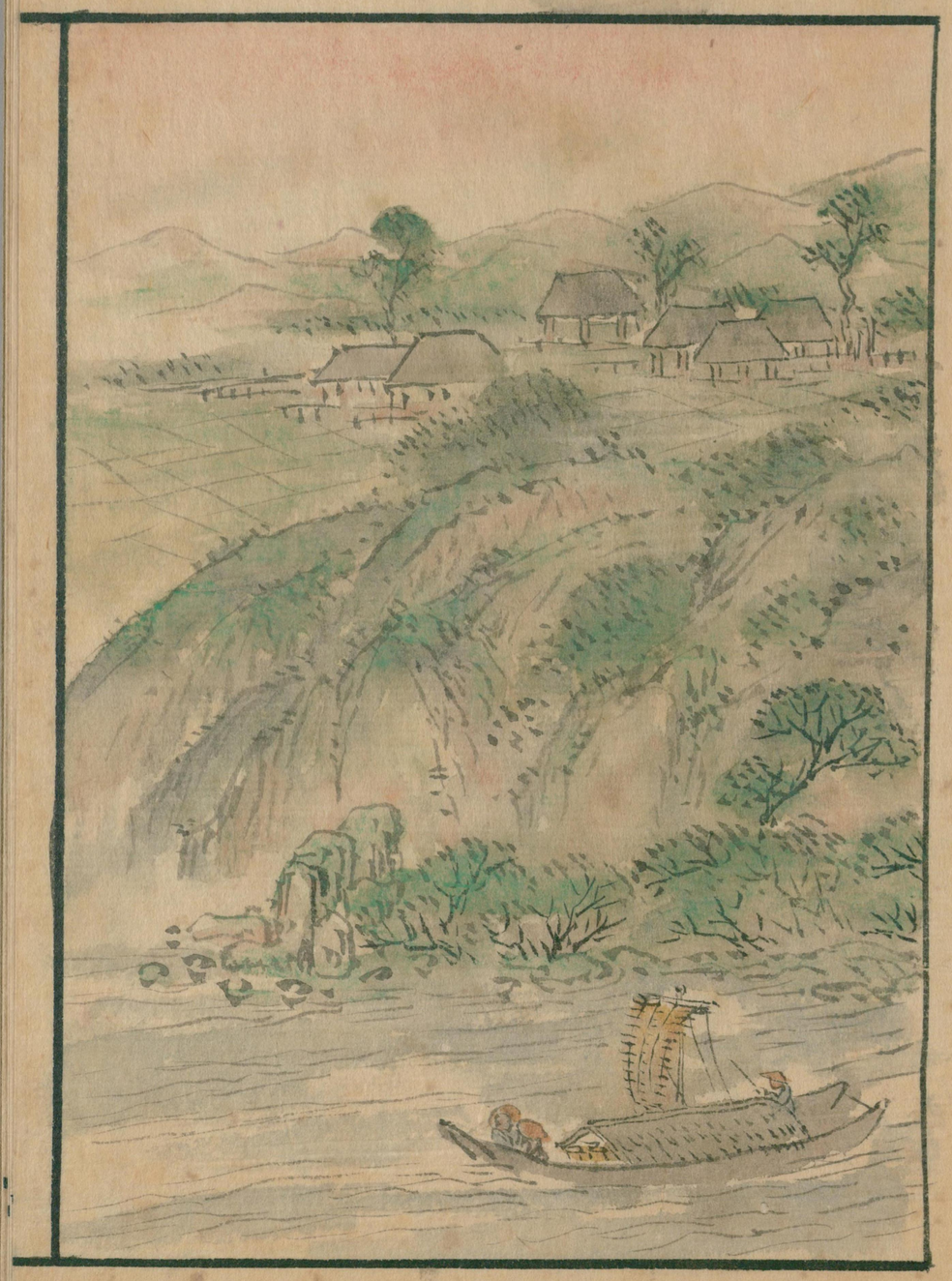
麻上下着用　久保田日記　若葉　同　浅持　草慶

麻上下着用　中郷治兵衛　上同　上同　上同　上同　上下着用

十四十八日年の刻御遷座相撲所法華寺
御開帳諸人押合へし会場詰る中
さいかち曽根の群集なりけり

犀川の東水ふく村山村の高像

此図は多ふ山さまに去れ春の頃は色
ふる葉神前に上東詰るに先乃書茶
おしく高麦なる二丈ゆ東の松の立木を
此上ふちう者くらは鶴なるうるうる行う
けるの四ゆ丈ゆ上ゆ沈みく間けるゆ満水
の中しく水の面ゆ影ゆけるとうまれ人



国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

方もなく哀れ　国郡荒れ　屋敷荒れ　畑荒れ　家作
壊つけ　家財　地面　地所　高地　高地　高地
落世　代　代　代　代　代　代　代　代　代　代
形しるのうちはは
早乙女もみな　働らくやる　安堂
心もち　毒の　○よる雨の　早苗
二尾　荒し　苗代時の　暮れ　荒れ
大　井蛙

大地震　当国　会津　水の　大勢　死る　ものの
手負　数　此事　迷　順　人々　落ル　巨細の　事共　有　置
亦　己の身の上の事　なく　なし　なし　なし　なし　なし　なし　なし
変　なし　なし　廣　なし　なし　眼前　其　細　なし　なし
国　落　此　数　なし　なし　記　事
後編　三の巻　事
地水　三　の　断　立山里　村　人民　牛馬　死　の　数
耕　地　荒　雑　新　の　変　事　請　市　領　市　百　個
有　之　事　共　数　巨細　之　事
諸　市　領　様　市　仁徳　市　敬　あ　事
事　も　数　新　之　十ノ

後編四の巻雑記の部

大地震より出来あるいは機関仕掛る
所の変災数々の等追々書かく
紙数枚埋む

後編五の巻之巻

おのおの百有余ヶ所時蒙る勅使
ならびに御用よりなる所の書類
ならびに御使ならびに寄物の
ともに成ることなく

後編六の巻之巻

善光寺清山内の故事市中の回例
御金御普請の目細近様なる
故事 武蔵集ならく 写

後編七の巻之巻

信濃国信濃国のなかつく所々山里村
名分郷高附家数人数別等状記是之巻
廣さまして已加愚峠の傳事之所之
之ともなしく長種之事ならく事
成能おもしく
事武蔵之

善光寺清山内の故事市中の回例
御金御普請の目細近様なる
故事 武蔵集ならく 写

後編七の巻之巻

信濃国信濃国のなかつく所々山里村
名分郷高附家数人数別等状記是之巻
廣さまして已加愚峠の傳事之所之
之ともなしく長種之事ならく事
成能おもしく
事武蔵之

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

尚後ろ面長地震書類入り袋
下味より成申る面の記録帳
地震大備洪水繪圖
是等の品々子孫為
もて大事に致すべきものなり

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

849
特別
55

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用